

## 7 コミュニケーション ワークショップ～「ことば」の達人に学ぶ～

平成18年10月21日～22日

### 1 ねらいとその達成状況

|                        |   |              |                        |
|------------------------|---|--------------|------------------------|
| 事業項目・区分<br>(現代的課題等)    | 主体性、社会性を育むための体験活動等事業<br>学校教育関係者・社会教育指導者・関係者(青少年教育施設職員等)の<br>研修事業  |              |                        |
| 事業のねらい<br>(学習要求や必要課題等) | 複雑化する社会環境の中で育つ青少年のコミュニケーション手段において、欠くことのできない「ことば」の様々な表現方法や伝達の手法を体験学習法を軸にして学び、コミュニケーショントレーニングの機会を提供することで青少年の健全育成に資する。 |              |                        |
| ねらいの達成状況<br>(参加者の変容等)  | 参加者から、「言葉の持つ意味をあらためて見直した」「相手を思いやる心と自分自身を見つめ直す術を学ぶことができた」等の声が聞かれた。   |              |                        |
| 参加者のアンケート<br>結果(満足度)   | 事業全体<br>運営  | 100%<br>100% | プログラム<br>職員の指導・助言 100% |

### 2 企画・立案

|                       |  |         |                      |
|-----------------------|--|---------|----------------------|
| 事業の必要性<br>(理由・背景等)    | 多様な価値観が錯綜する現代において、青少年のコミュニケーション能力の低下が懸念されており、自分の気持ちを表現するためには「ことば」によるコミュニケーション能力の育成が重要である。本事業は、「ことば」を扱う様々な体験学習から知識・技能を獲得し、深め、実際に活用するための基盤となる力を養い、考える力・感じる力・想像する力・表す力の育成を図るために必要である。 |         |                      |
| ニーズの把握状況              | 社会の様々な要因から、言葉を介しての意思疎通や日常的なコミュニケーションが十分に行えない青少年が増えつつある。それらは、いじめや不登校、家庭内暴力、少年非行等の青少年をめぐる諸問題と通底しており、青少年教育施設の指導者や教育関係者をはじめ、各種団体等からもコミュニケーション能力育成のためのセミナーの開催が求められている。                  |         |                      |
| ねらいとプログラムの関係          | 「ことば」に関わる様々なジャンルの高い見識・技能を有する有識者をゲストに迎えることにより、「ことば」の持つ力や魅力について広く知識を得ることができるようにした。また、適切な言葉遣いや「ことば」による表現方法・伝達の手法等をワークショップを取り入れて実践的に学べるようにした。  |         |                      |
| 主なプログラム<br>(タイムテーブル)  | 第1日  |         |                      |
|                       | 時 間  | プログラム   | 活動内容概略               |
|                       | 9:45～10:00   | 開講式     | ねらいの共有化等             |
|                       | 10:00～12:00  | 講座1     | 国語力ワークショップ           |
|                       | 13:00～15:00  | 講座2     | コミュニケーションのための脳トレーニング |
|                       | 15:15～16:45  | 講座3 - 1 | 川柳入門・川柳ってなあに?        |
|                       | 18:30～21:00  | 講座4 - 1 | 音楽と朗読のコラボレーション       |
|                       | 21:00～22:30  | 交流会     |                      |
|                       | 第2日  |         |                      |
|                       | 時 間  | プログラム   | 活動内容概略               |
|                       | 8:30～10:30   | 講座3 - 2 | 川柳実作(野外散策より)         |
|                       | 10:45～12:15  | 講座4 - 2 | 心をこめた朗読体験            |
|                       | 13:30～15:30  | 講座5     | うまい『しゃべり』の基本         |
|                       | 15:30～16:00  | 閉講式     | 修了証授与等               |
| 事業の改善点<br>(継続事業のみ)    | 平成18年度からの新規事業のため、省略。   |         |                      |
| 企画・立案体制(関係機関・講師との連携等) | 「ことば」による自己表現力・思考力を国語力の育成とも関連させながら講師とともに企画・立案を行った。また、事前打合せを行う中でねらいを共有化し、「ことば」について多面的に捉えた人間関係構築のための様々な表現方法を考察し、体験学習を重視したプログラムを考えた。   |         |                      |
| 募集人数の設定基準             | 参加者が十分にワークショップを体験し、コミュニケーションの方法について理解を深めることができる最大人数を、講師と相談の上で設定した。   |         |                      |
| 実施時期の設定理由             | 文化の日を中心として教育・文化に関する国民の理解と関心を図る「教育文化週間」に近い時期であり、事業のねらいに即していると考えた。   |         |                      |

### 3 参加状況等

|           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 募集人数・募集対象 | 募集人数：30人 募集対象：社会人，学生，高校生 |
|-----------|--------------------------|

|            |  |
|------------|--|
| 参加者数(申込者数) | 参加者数：30人(申込42人)  |
| 参加者内訳      | 高校生：1人，学生：10人，社会人：19人(10代3人，20代13人，30代5人，40代7人，50代2人)                              |
| 参加地域       | 設置道県：16人，<br>設置道県以外：14人(内訳：栃木県3人，茨城県2人，埼玉県1人，東京都1人，千葉県1人，神奈川県2人，新潟県2人，長野県1人，広島県1人) |
| 広報活動       | 開催要項・チラシの配布及び掲載(関東地区の社会教育施設・都道府県委員会等・青少年教育団体・各種学校・WEB上・新聞・広報誌等)                    |
| 参加費        | 4,000円   |
| 運営担当者      | 企画指導専門職：4人   |

#### 4 事業実施

|                          |  |
|--------------------------|--|
| ねらいの周知・方法<br>(参加者・講師・職員) | 参加者には，WEB上及び二次案内により当日の内容やねらい等を周知した。講師や職員とは，メールのやりとりや事前打合せにおいて，情報を共有化した。                            |
| 参加者の学習状況<br>(学習内容・方法)    | 講座は，「聞く」「話す」の音声言語分野と「読む」「書く」の文字言語分野という「ことば」の特性全般に及ぶ内容であり，参加者は，相手の人格や考え方を尊重しながらの「伝え合い」を中心に学んだ。      |
| 日程運営<br>(スケジュール)         | コンサートをプログラムに取り入れたり，各講座時間を短めに設定したりして，参加者同士の交流を楽しめるプログラムとなるようにした。                                    |
| 学習環境<br>(施設設備・教材資料等)     | 発声練習等の動きのある実習が予定されているため，他の施設利用者への影響を考慮した音楽室をベースの会場として設定した。参加者が作成した川柳作品は，全員が鑑賞しやすいパネルに掲示するなどの工夫をした。 |
| 健康・安全対策                  | 室内での研修や野外散策では，参加者と行動を共にし，安全管理に努めた。緊急体制については事務室待機職員と連携し，全職員で手順を確認した。                                |
| 講師・関係機関等との連携<br>(ボラ等を含む) | プログラム内容は，参加者に関する情報なども考慮し，ニーズに合うように検討した。野外散策においては，講師とともに実施前にコース点検を行い安全対策を講じた。                       |

#### 5 事業実施後の評価や普及

|                             |   |
|-----------------------------|---|
| 参加者の評価<br>(アンケートの自由記述等から)   | 「講座の内容をここだけのものとせず，日常生活に結びつけたい」「『心』のコミュニケーションの大切さを実感した」「出会いの感動を味わった。『ことば』の贈り物，ありがとう」などの感想が多く聞かれた。                  |
| 講師・関係機関等の評価                 | 参加者は自ら問題意識をもって講座に臨んでおり，コミュニケーション能力を高める手法にとっても関心・意欲が高いと感じた。また，参加者の多くは指導者のため，問題を抱える青少年へ普及が期待できるとの評価を得た。             |
| 職員の評価<br>(企画段階から関わったボラ等を含む) | 講師との共通理解を十分図り，参加者の立場を考慮した運営をすることができた。教育関係者が多かったので，青少年教育の現場に直接活かしてもらえることが期待される。                                    |
| 事業報告の状況                     | 文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。WEB上にも事業報告を公開した。また，所内にも報告の掲示をした。   |
| 普及実績<br>(計画・予定を含む)          | 参加者の多くは学校教育関係者のため，問題を抱えている青少年へ普及と各分野・各地域での教育的効果が期待される。  |
| 事業後の反応<br>(参加者・普及先等)        | 学生の参加者からは，「普段意識しない『ことば』について考えるきっかけとなり，人と接する際に口調や表情などに気をつけるようになった」，学校教育関係の参加者からは，「ワークショップの手法を学級経営に役立てている」との報告があった。 |

#### 6 その他の特記事項(成果等)

|  |  |
|--|--|
| <p>高校生から学校教育関係者・会社勤務の社会人など，参加者の年齢幅が広く，言語に対する関心の高さや知識の深さの違いが大きかった。そのため，多くの参加者のニーズに応えることが難しく，今後はさらに参加者層のレベルに応じた研修事業として見直しを検討したい。</p> <p>講師の人選では「ことば」の多面性を考慮し，脳科学の視点からひもとくコミュニケーション能力の育成についての講座なども設けた。</p> <p>本事業は，国語力の育成とも関連させた事業のため，長期的に取り組み，確実な人間関係形成能力の育成を図りたいと考える。そこで，次年度よりワークショップの手法のみにとらわれないコミュニケーショントレーニングの講座も取り入れたい。</p> <p>今回の講師：文化庁文化庁国語課 鈴木仁也氏 諏訪東京理科大学教授 篠原菊紀氏<br/>川柳作家 やすみりえ氏 パーソナリティー，ナレーター 松浦このみ氏<br/>アナウンサー 志生野温夫氏</p> |  |
|--|--|